第四十七回中部日本高等学校演劇大会参加作品

滝高等学校

おぎあ

作　瀧　源作

連絡先
滝　高　校
〒四八三―八四一八
愛知県江南市東野町米野一番地
電話（〇五八七）五六―二一二七

著作権者連絡先
滝高校演劇部ＯＢ会会長　水谷潤一
〒四八四―〇〇七三
愛知県犬山市天神町五ノ二十五

キャスト

（メインの赤ん坊7人・主任・看護婦数名・父親、母親数名・他部屋の赤ん坊多数）

良明（よしあき）　父親１（みなの父親）
久師（ひさし）　母親１（みなの母親）
大介（だいすけ）　父親２（よしあきの父親）
純平（じゅんペー）　母親２（よしあきの母親）
文恵（ふみえ）　父親３（だいすけの父親）
佳代子（かよこ）　父親４（ひさしの父親）
美奈（みな）　母親４（ひさしの母親）
母親５（かよこの母親）
主任（田中）　母親６（じゅんペーの母親）
看護婦１（晃子・あきこ）
看護婦２（智子）
看護婦３（戸成礼奈）
他看護婦数名

他部屋の赤ん坊多数

赤ん坊達

看護婦２
看護婦１
看護婦２

看護婦３
看護婦１
看護婦３
看護婦２
看護婦３

看護婦２

看護婦１
看護婦２

看護婦３
看護婦１
看護婦３
看護婦１
看護婦２
看護婦１・３

新人１・２
看護婦２

・ダークオープン。音楽とともに、照明Ｃ・Ｉ
・廊下に見立てたアーチと、新生児ベットが７台並んでいる。
・舞台前方に一列に並んだ赤ん坊達による、ダンスが始まる。

（突然曲が止まって）誰か来た！
・全員、上手下手、アーチ奥に走り去る。
・看護婦１、登場。看護婦２も遅れて登場。
先輩、おむつ持ってきました。
はい。そっちからお願い。
はーい。
・看護婦３、急ぎ足で登場。
ごめん、遅れちゃった。
おむつそこにあるから。
（見て）まだこんなにあるの？
あと２部屋ですから。
（空きベッドを見て）そうそう、今日　平光さんところの赤ちゃん入るのよね。
一時間前に分娩室に入られましたから、もうすぐじゃないですか。
また増えるの？私もうイヤ。
（赤ん坊をなでて）でも、この赤ちゃん可愛い。私も早くこんな赤ちゃんが欲しいな。
看護婦なんかしてたら、結婚なんか一生無理よ。
そう、仕事キツイし。
夜勤多いし。
若い男、少ないし。
じゃあ、結婚あきらめたんですか。
だまってなさい。
・新人看護婦１・２登場。
先輩、手空きました。
そこのおむつ持っていって。

新人１・２
看護婦１
新人１・２
看護婦１
看護婦３
看護婦１
看護婦３
看護婦２

看護婦３

看護婦２
看護婦１
看護婦３
看護婦２

主任

ふみえ
よしあき
ひさし
ふみえ
じゅんペー
ひさし
かよこ
ふみえ
じゅんペー
ふみえ

よしあき
ひさし

はい。（走りかける）
バタバタ走らない！　ほこりたつでしょ？
はい。（去って行く）
（見送って）元気ねー。
新人だもんね。
昔は私たちもああだった。
今じゃもう無理ね。
先輩、引退してもいいですよ。あとは私に任せて下さい。
こう言ってる子が、いじめられて、やめちゃったりするのよね。
ひどいー。私、やめませんよ。
期待してるわよ。
未来の婦長さん。
はい！
・アーチ裏より、主任登場。
平光さんとこの赤ちゃん産まれたからすぐ来て。ベッドの準備できてるわね。
・全員　上手にはける。
・看護婦が行ってしまった後、ベッドの中から、赤ん坊の泣き声がする。
おぎゃあ、おぎゃあ、おぎゃあ・・・・
うるせぇな！
静かにしろよ！
だっておなかがすいたんだもん。
文恵～。
寝られやしない。
わたしもおなかすいたあ。
おなかがすいて、眠れない。
じゃ、起きてりゃいいじゃない。
（じゅんペーに向かって）おぎゃあ、おぎゃあ、おぎゃあ
それよりさ、今の話聞いたかよ。
もう一人入ってくるってね。

みな	ここに入るんだよね。
かよこ	男の子かな？
じゅんペー	女の子かな？
よしあき	絶対可愛い子だよな。
みな	絶対カッコイイ子だよ。
ふみえ	来てからのお楽しみ！
ひさし	ねぇ！
	・全員注目
ひさし	また、あれやんの？
5　人	うん。
ひさし	もう3回目だよ。
5　人	うん。
よしあき	いいじゃないか。俺たち今晩が最後なんだしさ。
じゅんペー	みんなで遊ぶの最後なんだしよ。
よしあき	なっ！
じゅんペー	なっ！
ひさし	ま、いっか。
6　人	うん！
よしあき	あ、看護婦だ！
	・全員ベッドにもぐる。
看護婦3	・主任・看護婦1・2・3入ってくる
看護婦1	あっこ、それ抱き方おかしくない？
看護婦3	おかしくない！
看護婦1	おかしいじゃん！だって、こうだもん！
看護婦3	同じじゃない！（肯定）
看護婦1	同じじゃない！（否定）
看護婦3	同じ！（肯定）
看護婦1	だいたい、あんた学校サボってたじゃない！
	あんただって、まじめに授業受けてなかったくせに！
看護婦3	あたし、ちゃんと学校行っていたもん！
看護婦1	あたし、ノートちゃんと取っていたもん！
看護婦3	あたしのコピーしていただけじゃない！
	・二人騒ぎつづけている

主任	静かにしなさい！
	・主任　看護婦1から赤ちゃんを受け取り、ベットへ寝かす。
看護婦1	あんたの声が大きいからいけないんじゃない。
看護婦3	あんたの地声のほうが、大きいんじゃない。
看護婦1	どうしてあたしの地声のほうが、大きいの！
看護婦3	あたしのは、小さいの！
看護婦1	小さいって声が大きいの！
看護婦3	そういうあんたがうるさいの！
看護婦2	先輩、あんまり騒ぐと、赤ちゃんひきつけ起こしますよ。
看護婦3	ひきつけを起こすのは、私のほうよ。
看護婦1	何であんたがひきつけ起こすのよ。
看護婦3	私だって、ひきつけぐらい起こすわよ。
看護婦1	何冗談いってんのよ。
看護婦3	私、体弱いんだからね。
看護婦1	うそばっかり！
看護婦3	うそじゃないって！
主任	行きますよ！
看護婦1・3	はい。
	（看護婦たち去りながら）
看護婦3	だいたい、この子が悪いんじゃない。
看護婦1	あんたが一番うるさいんでしょ。
看護婦2	何でですか！先輩達がいつもしゃべっているからいけないんじゃないですか。（などと騒がしいまま去る。）
	・赤ん坊達、大介のベットの周りに集まる。
6　人	（おのおので）ア～、アア～（などとのどの調子を確かめて）
	・6人、ハッピーバースデーの歌を歌い始める。途中から、だいすけが目を覚まして、モゾモゾと顔を上げる。
6　人	♪ハッピーバースデートゥーユー（中略）・・ディア・・

だいすけ
６　人

だいすけ
ひさし
だいすけ
６　人
だいすけ
よしあき
かよこ
だいすけ
じゅんぺー
だいすけ
ふみえ
だいすけ
ひさし
よしあき
だいすけ
よしあき
だいすけ
よしあき
だいすけ
よしあき
だいすけ
ひさし
ふみえ

大介！
♪**大介**～　ハッピバースデートゥーユー。おめでとう！（拍手）
ありがとう！ありがと・・・何のこと？
産まれたんだよ！
産まれたって何が・・・へその緒がない！
はははは・・・
ハクション！　ハクション！
ハクション！
まだ空気に慣れていないんだな。
大丈夫？
ハクション！　（じゅんぺーの服で、鼻をかむ。）
気分はどう？
ここはどこ？
ここは新生児室よ。
新生児室？じゃ、僕産まれたんだ！
やっとわかったんだね。
大介だったよな。
うん。
俺、良明って言うんだ。
良明君。
一晩だけだけど、よろしくな。
よろしく！・・一晩？僕が産まれる前に聞いたときは、確か3日間って教えてもらったよ。
俺と文恵、それと久師は生まれて今日で3日目。
だから、こうして話すことができるのも今夜が最後なんだ。僕久師、将来の大金持ち。
将来・・・そっか、じゃあみんなも自分の将来のこと、教えてもらってるんだ。あのおじいさん、いそがしいんだな・・・
おじいさん？
ああ、人それぞれさ、見える姿は違うらしいんだ。
僕の時はイエス・キリストだったぜ。
僕は七福神だった。宝船に乗ってたよ。
私はね、光だったの。女の人の声が聞こえたのよ。

かよこ

だいすけ
かよこ
だいすけ
じゅんぺー
だいすけ
じゅんぺー
だいすけ
じゅんぺー
みな
じゅんぺー・みな
だいすけ
じゅんぺー
だいすけ
みな
だいすけ
よしあき

じゅんぺー
ふみえ
ひさし
みな
よしあき
みな
じゅんぺー
だいすけ
じゅんぺー
よしあき

佳代子は天使様から、教えてもらったのよね。
うん。わたし佳代子、今朝産まれたんだ。よろしく。
じゃ、僕と同じ日までいられるんだね。
うん、あさってまでだね。
うん。
いいなあ、俺は明日までだからな。
君は？
純平っていうんだ。で、こっちの変なのが美奈。
私達は、明日までなんだ。
どうか、よろしく。
よろしく。で、純平君は誰に教えてもらったの？
うん、貧乏神だよ。
・・・・・。　美奈ちゃんは？
私は影だった。しっぽがとがってて、ツノがあったかもしれない。・・・どうしたの？
いや、いや～・・・何でもない。それよりさ、その教えてくれた人って将来と何か関係あるのかな。
さあな、少しはあると思うんだけどな。それにしても、よくこれだけバラバラになったもんだよな。天使だとか七福神だとかいればさ、悪魔だとか貧乏神だとか。
まあ、何とでも言ってよ。どうせ今夜で会うことも無くなるんだしさ。
やっぱりもう会えないのかな。
会ってもわからないよ。3日たてば、みーんな忘れちゃうんだから。
やだなぁ。なんで3日で忘れちゃうんだろ。
ばーか。みんな知ってたら、人生つまんないだろ。
ばかって言うな！
まあまあまあ、知らない方がいい事もあるしさ。
何で？　純平君どうなるの？
俺？言わなきゃだめ。
もう一回聞きたいな。

ひさし
じゅんペー
よしあき
じゅんペー
だいすけ
じゅんペー

だいすけ
じゅんペー
だいすけ
じゅんペー

よしあき
ひさし
だいすけ
じゅんペー

ひさし
かよこ
じゅんペー
だいすけ
じゅんペー

よしあき
だいすけ
じゅんペー
よしあき
じゅんペー

僕が代わりに言ってあげようか？
まあ、いいよいいよ。　俺んちは大工なんだ。
何人目だっけ。
6人目だよ。末っ子なんだ。
へえ～。にぎやかでいいじゃない。
それがそうでもないんだ。僕ね、親戚の家に預けられるんだ。
どうして？
大手の建設会社に押されて、家が苦しくなるんだ。
大変なんだ。
それでさ、その親戚の家にいると何か気まずいんだ。だから、夜　道路工事のアルバイト始めるんだ。
いいよな、働く青少年。
でも、長続きしないんだよな。
辞めちゃうの？
うん、工事現場で穴掘ってたらセミの幼虫が出てくるんだよ。それが掘れば掘るほどいっぱい出てきちゃうんだよ。・・・ほらセミって7年も土の中にいるのに、外にいられるのは一週間だけだろ。そのこと考えてたら、自分が何か悪いことしてる気になっちゃってさ。
それでやめるなんて優しすぎるんだよ、お前は。
そこがいい所なんじゃない。ね！
ありがと。
で、やめた後どうすんの？
町の中もいやになってさ、高校卒業してから山小屋の管理人になるんだ。変かな？
そんなこと無いよ。
何だかんだいって、それほど悪くないじゃないか。
そうかな。
そうだよ。自分で生き方を選んだんだろ。いい人生じゃないか。
まあね、良明みたいに派手じゃないけどな。

だいすけ
ふみえ
じゅんペー
ひさし
よしあき

だいすけ
よしあき

よしあき
だいすけ
よしあき

だいすけ
よしあき

じゅんペー

よしあき
だいすけ
よしあき

だいすけ
よしあき

ひさし
よしあき
だいすけ
よしあき
ひさし

だいすけ
よしあき

派手って？
派手っていうより無茶よね。
波瀾万丈でいいんじゃない。
無鉄砲なだけさ。
何とでも言え。俺は写真家になるんだ。けっこう有名になるんだぜ。
写真家か。それじゃあ・・・
うん、海とか山とかいろんなところへ行って、いろんな写真を撮るんだ。
・みな、かよこ、ふみえ、だいすけがモデルとなり、じゅんペーが写真を撮る真似をしている。
四人とも、とってもきれいだよ。大介君もっと色っぽく、あごをもっと上げてごらん・・・、そうそう・・・
ばか！違うよ。俺は人は撮らないの！
どうして・・・。
知らないよ。何て言うんだ、こう上っ面だけきれいに飾ってるやつってさ、俺きらいなんだ。
じゃ、何撮るの？
俺は、自然の写真専門さ。冒険写真家ってやつかな。
じゃ、どんなところへ行くの？
知らない。俺さ、出産予定日よりも早く産まれちゃったから、細かいところよく聞いてないんだ。でも、ひとつだけ、南極に行くってことだけは、ばっちり聞いたぜ。
でも、そこでひどい目に遭うんだよな。
まあな。
え、どうなるの？
あのさ・・。
こいつ、よせばいいのに、吹雪の中ウロウロして、迷子になるんだよ。
どうしてそんな事するの？
吹雪の後に出るオーロラってやつを撮ろうと思って

だいすけ
よしあき

だいすけ
よしあき
かよこ
だいすけ
よしあき
かよこ
よしあき
ひさし
よしあき
ひさし
だいすけ
よしあき

ひさし

じゅんぺー・みな
ひさし
ふみえ
だいすけ
ひさし
ふみえ
かよこ

ひさし
かよこ
よしあき

さ。危うく、凍死しかけちゃうんだけどな。
それで、オーロラは撮れたの？
もっちろん！すっげえのが出たんだぜ。何年に一度っていうとんでもないやつがさ。それが、俺の最高傑作ってわけ。
すごいなあ。僕、その写真買うよ。
サンキュー。安くしとくよ。
でも、忘れちゃうんでしょ。
あ、そっか・・。
いいさ、気に入ったら買ってくれよ。
きっと素敵な写真だと思うよ。
そーなんだよ。おまえよくわかってるなあ・・。
まあ、僕には関係ない事だね。
何だよ、その言い方。
動かす金の次元が違いすぎるからさ。
写真ってお金にならないの？
ちょっとぐらいもうけても、カメラとか旅行とかで使っちゃうから。でも、世界中の景色を買ってきたと思えば安いもんだよ。
ははは、君が世界中はいずりまわってる頃、僕はクルーザーで世界一周中さ。君達、いっしょに行くかい？
行く行く・・。
女の子だけだけどね。
あたしは、遠慮しとく！
そっか。久師君は、お金持ちになるんだよね。
そうさ。君たちとは、住む世界が違うのさ。
ひどい。
あんなこと言ってるけど、本当は久師君、いい人だよ。
佳代子、おまえは男をよくわかってるよ。
ありがと。
おまえはなあ、知り合ってからまだ間が無いから、そんなこと言ってられるんだよ。

かよこ
ひさし

よしあき
じゅんぺー
よしあき
ひさし
よしあき
じゅんぺー
ひさし

ひさし
だいすけ
ひさし
だいすけ
6人
だいすけ
ひさし
だいすけ

じゅんぺー
だいすけ

よしあき
だいすけ

じゅんぺー
だいすけ

そんなことないよ・・・。
良明。おまえは、まだまだ男がわかってないな。文恵、金はいいぞ。好きなこと何でもできるし、凍えて死ぬようなことも無いし。
へっ、金があっても、ロマンがないよ。なぁ？
その通り！自分の手でロマンをつかみとる！これがいいんだよ。
それがいいんだよ！
金持ちは生きてることがすでにロマンなんだよ。
言わせとこうぜ、なっ。
ああ。
ちぇっ。
・全員笑う。それからひさしが思い出したように。
大介、次はお前が話せよ。
僕？
うん。おまえだよ。
僕はね、スリランカへ行くんだ。
スリランカ？
うん！
どうしてそんなところへ行くんだ？
うん・・、海外青年協力隊ってあるだろ。日本を離れたくってさ。
じゃあ、日本がいやになったのか？
そうじゃないよ。実はね、僕、女の子から逃げるんだ。
・ふみえ気づく。まわりもだんだん気付き始める。
どんな女なんだよ。
大学で初めて知り合うんだけどね。その子がしつこいんだよ。いつも僕にべたべたべた、くっついてきてさ。顔はまあまあかわいいんだけど、それがプテラノドンみたいにキャーキャーうるさくて、おまけに乱暴者なんだよ。
それで協力隊で何やるんだよ。
先生だよ。学校の先生。絵を教えるんだ。

6　人
だいすけ　ふーん・・・・。
そんなことよりね、その女の子が、スリランカまでついてきちゃうんだ。本当まいるよなぁ、新しい隊員が一人入るって聞いて、いやな予感はしてたんだけど・・・。
ふみえ　その人って何の先生？
だいすけ　ああ、日本語だよ。日本語の先生。ああそれでね、その子の授業がまた笑っちゃうんだよ。その子ね、背がすごく小さいもんだから、後ろの席のほうから見えなくて、黒板も下の方にしか書けないんだよ。本当に小さいんだよ。こーんなもんだよ・・・・。
ふみえ　（だいすけに近寄り）で、名前は？
だいすけ　名前？　名前は何て言ったかなあ。えぇっとねぇ・・・あ、最初に「ふ」がつくんだよ。ふ・ふ・・あっ、文恵だ！文恵！文恵・・・。（思わずふみえを指差している。）
ふみえ　誰がプテラノドンだって！
だいすけ　・沈黙
5人　（みんなの方を見て）おほほほほほ・・・。
ふみえ　おほほほほ・・・。
だいすけ　（だいすけの頬をたたく）
ふみえ　えっ！・・・じゃあ、文恵ちゃん！？
だいすけ　そーよ、私よ！
ふみえ　何でこんな所にいるんだよ！
だいすけ　知らないわよ！あーあ、何でこんなやつとくっつくんだろう。
ふみえ　そんなこと僕が聞きたいよ。でもこんなところで会ってたんだ。大学で会う時、どうも初めて会った気がしないわけだよな。
だいすけ　本当に本物だ！
みな　こういう事ってあるんだ。
かよこ　いいよなあ、生まれた時から出会うと運命づけられた2人！
よしあき　そんなカッコいいもんじゃないよ。
だいすけ　そーよ。（だいすけをこづく）
ふみえ　いたいなあ、何するんだよ。（こづき返す）
だいすけ　（二人　じゃれあっている）
ふみえ　何だかんだ言っても、けっこう仲良さそうじゃん。
よしあき　何言ってだよ！
だいすけ　そうよ！
ふみえ　（よしあき、二人にふっとばされる。）
かよこ　大丈夫？
よしあき　・・大丈夫。
じゅんぺー　でもさ、2人はもう十八年間会えないんだろ？
だいすけ　もう会えなくたっていいもん！
ひさし　そう意地はるなよ。
ふみえ　・全員笑うが、他にも笑い声が聞こえる。
みな　しっ。
父親1　あっ、パパとママの声だ！
母親1　・全員ベッドにもぐる
父親1　・父親1と母親1が手をつないで笑いながら、アーチの上に入ってくる。
母親1　絶対あっちゃんに似てるって。
父親1　絶対たーくんに似てるわよ。
母親1　あっちゃんだよ。
父親1　たーくんよ。
母親1　ほら、このほっぺなんか、あっちゃんにそっくりじゃないか。
二人　何言ってるのよ。たーくんのお鼻のほうが、似てるわよ。
母親1　そんなことないって。
父親1　そんなことあるわよ。
母親1　ない。
二人　ある。
母親1　あはははは・・・。
二人　・2人笑いながら、新生児室をのぞき込む。

母親1　ほら見てたーくん、うちの美奈ちゃんが一番かわいい。
父親1　うん、やっぱりあっちゃんに似て美人だしね。
母親1　もう、たーくんたら・・・。
父親1　（つないでいた手がねじれて）アイタタタタ・・。
母親1　あ、ごめんごめん・・。
父親1　いいよ・・。ところでさ、あっちゃん。俺たちさ、もう親になったんだし・・、その・・、お互いの呼び方を変えた方がいいと思うんだ。
母親1　じゃあ、・・・あなた。
父親1　そうじゃなくって、もっと家族って感じの呼び方。・・・だから、つまり・・・パパ、ママって。　ほら、呼んでみてよ。
母親1　えー、やっぱりたーくんから呼んで。
父親1　え、しょうがないな。じゃあ・・・ママ。　なんか、はずかしいなママなんて、ハハハ・・・。今度は、あっちゃんの番だよ。
母親1　えっ・・・じゃあ・・・パパ。
父親1　パパなんてそんな・・・ハハハ。ママ。
母親1　パパ。
・二人、呼び合っている。二人の距離は縮まり、キスしようとする。
主任　・主任と新人看護婦1・2が入ってくる。
母親1　前山さん。・・・前山さん！
父親1　こんばんわ。
主任　どうも・・・。
安静にしていないと困りますよ。そろそろ病室に戻ってくださいね。
母親1　はい。行こう、たーくん。
父親1　うん。　あ、そうだ。俺、何か冷たいものでも買ってくるから。あっちゃん、先に病室戻っててよ。
・母親1、去る。
父親1・主任　・父親1、行こうとして、主任とぶつかる。
すみません。
・父親1・主任・新人1・2去る。
・みんなベットから出てくる。
よしあき　美奈の所、本当仲いいなあ。
ふみえ　見てるとこっちがはずかしくなるくらい。
じゅんぺー　いいなあ、おしどり夫婦って。
だいすけ　きっと幸せな家庭なんだろうね。
みな　うん。離婚しちゃうけどね。
6人　（口々に）やっぱりね。仲がいいっていいよね。うらやましい・・（等、仲がいいことに納得していたが、気づいて。）
だいすけ　ええっ！
みな　私が5歳のときに離婚しちゃうんだ、あの2人。
だいすけ　そんなぁ、仲良さそうに見えたのに・・・。
みな　パパが浮気するの。さっきの看護婦さんと。
よしあき　そうだったのかよ。
ひさし　そんな家庭に育つんだな、美奈は。
みな　あんたはどうなのよ。お金にあかせて、女の子と遊びまくっているんでしょ？
ひさし　僕はそんな事しないよ。美人の奥さんもらって、幸せに暮らすんだ。
・6人　顔をくしゃくしゃにして、からかう。みな　は、ひさしに向かって、顔くしゃくしゃ。
みな　何やってるんだよ。（みなを小突く。）
だいすけ　いじめるー。
みな　そういえば、美奈ちゃんはどうなるんだっけ？
よしあき　私は、二十一世紀の宗教『みなさん教』の教祖様になるのです。
みな　『みなさん教』！？
そうです。私は神の啓示を受けて、『みなさん教』を開くのです。
「悪魔のささやき」じゃないのか。
あっ、美奈さんをバカにしたな。バチが当たるぞ。

よしあき
じゅんペー
よしあき
みな
だいすけ
みな
だいすけ
よしあき
みな
みな・ひさし
よしあき
ひさし
よしあき
ひさし

ふみえ
だいすけ
ふみえ
だいすけ
ふみえ
よしあき
ふみえ

ひさし
じゅんペー
よしあき

・じゅんペーがもてあそんでいるくつが、よしあき
の頭に当たる。
いてっ！何すんだよ。
バチだよ。
バチ？！
バチがいやだったら、お賽銭を持って来なさい。
お賽銭って・・。
こうやってお金をかせぐの。
それってなんかひどいよねぇ。
そう思うだろ。
いーの。やっぱ生きるなら、
お金だよねー。
やだやだ、心の貧しい人間は。
何だよ、単純なサル。
何か言ったか、ドラ息子。
気に障ったかい、チンパンジー。
・二人じゃれあう
みんなバラバラになちゃうのね。
僕たち以外はね。
（だいすけを叩いて）思い出させないでよ。
何でそんなに、何度も何度も叩くんだよ！
あんたが殴りやすそうな顔してるからでしょ！
文恵って、ほんと狂暴だよな。
頭にくると余計お腹がすくのよね。ミルクまだ！
・ふみえの他、全員直立する。
もう時間だよ。
ベッド戻ろうか。
そうしよう。
・全員　　ベッドにもぐる。
・上手、下手よりパネルと椅子が舞台上へ出て、場
面転換。

主任
看護婦４
主任

看護婦４

看護婦１
看護婦４
看護婦１
看護婦４
看護婦１
主任
看護婦４
主任

看護婦１
看護婦４

看護婦１

看護婦３
看護婦１

看護婦３
看護婦１
看護婦３
看護婦１
看護婦３

看護婦１
看護婦３

・主任と看護婦４が話しながら登場。
小貝さん、またさしいれもらったんですって。
おいしいメロンでしたよ。
まあ。患者さんから、あまり　物を頂かないように
して下さいね。
はい。
・看護婦１登場。
小貝さん。体温計どこ置いた？
割っちゃいました。
割っちゃいましたって・・何本？
１０本です。
それ全部じゃないの！
伝えなきゃだめでしょ。
すいません。
医務局に行って補充しておいてください。
・主任は去る。
はい。
お願いしますね。
・看護婦４も去る。
お願いしますって、ちょっと小貝さん。待ちなさい
よ。どうしてわたしが・・（等　騒いでいる）。
・看護婦３登場。
いつもいつもうるさいわねぇ。何騒いでいるの？。
ちょっと聞いてよ。小貝さんがまた体温計割っちゃ
ったのよ。
いつもの事なんだから、ほっときなさいよ。
そういえば聞いた？　武藤先生結婚するんだって。
誰と？
伊藤さん。
伊藤！？ちょっと待って！あたしプロポーズされか
けてたのよ。デートにも誘われたし、プレゼントも
もらったの。何で？！
だって、伊藤さんかわいいもん。
かわいくない。

看護婦1　あんた、ブスだからひがんでるんでしょ。
看護婦3　ブスはあんたでしょ。
看護婦1　どうして！
・二人、騒ぎつづけている
・看護婦2・新人1　椅子を持って登場（少し前に）
看護婦2　本当にお二人とも、よくしゃべりますよね。
・看護婦2・新人1パネル裏へ。
看護婦1　なぁに、あれ。
看護婦1・3　あれが先輩に対する態度！
看護婦3　あんたの教育が悪いんでしょ！
看護婦1　どうして私？！だいたい礼奈に似たのよ。
看護婦3　違う！
看護婦1　そう！
看護婦3　何よ！
・母親5　登場。
母親5　あの・・。
看護婦1・3　はい。
看護婦1　あ、栗田さん、歩いちゃだめじゃないですか。
看護婦3　今日出産されたばかりでしょ。
母親5　はい。もう、平気です。うちの子って、この中ですよね。
看護婦3　お子さんの顔が見たくなりました？
母親5　はい。
看護婦1　ちょっと待っててくださいね。
母親5　はい。
・看護婦1　赤ちゃんを連れに行く。
看護婦3　お子さん、佳代子ちゃんでしたよね。
母親5　ええ、主人が考えてくれたんですよ。
看護婦3　いい名前ですね。
母親5　ありがとうございます。
看護婦1　（赤ちゃんを渡して）はい。
看護婦3　目元なんかそっくりじゃないですか。
母親5　そうですか。
・母親6　入ってくる
母親6　こんばんわ。
三人　こんばんわ。
母親6　あら、栗田さん、産まれたのねぇ。
母親5　はい。
母親6　これ、男の子でしょ。これはねぇ、男前になるわよ。あたしが保証してあげる。
母親5　女の子ですよ。
母親6　あら、女の子なの。
母親5　はい。
母親6　ああ、でも女の子はお嫁に行っちゃうからね。あんた、がんばってもう一人男の子作っときなさい。
母親5　そうですね。
母親6　ね！
主任　可知さん。
母親6　はい。　すいません。
・主任　赤ちゃんを渡す
母親6　でもね、うちみたいに男ばっかりだと、かえってうるさいわよ。
主任　確か六人目でしたよね。
母親6　そう。もう一番上が中学生になったんですよ。あたしもうこの病院のヌシみたいなもんかしらね。新人の看護婦さんより詳しいぐらいよ。
看護婦3　そうですね。
母親6　あっそうだ。礼奈ちゃん。
看護婦3　はい。
母親6　さっき聞いたんだけど、あんたまだ結婚していないんだって？
看護婦3　そうなんですよ。
母親6　もう、いくつよ。
看護婦3　まだ二十五歳ですよ。
母親6　二十五っていたら、もうそろそろ結婚しないとねぇ。相手いるの？
看護婦3　いや、忙しいですから・・・。

母親6　いないの？じゃあ、あたしがお見合い写真を持ってきてあげようか？
看護婦3　本当ですか？
母親6　今ならね、五つぐらい話しが来てるから、よりどりみどりよ。
看護婦3　ははははは・・・。
母親6　あたし、そういうのまとめるの、うまいのよ。まかせときなさい！
看護婦3　母親5　ははははは・・・。
母親2　・母親2　入ってくる
母親6　にぎやかですね。
母親2　あら、田中さん。田中さんっていくつだっけ？。
母親6　私は二十五ですけど・・。
母親2　ほらね。だから言ったじゃない。
母親6　え？何の話ですか？
母親2　今ね、礼奈ちゃんに早く結婚しなきゃだめよって、言ってたのよ。
母親6　可知さんは、世話好きですからね。
母親2　まあ、照れるわね。
母親6　・母親1　母親4　話しながら入ってくる
母親1　本当？すごいわね。
母親4　あら、そうですか？
母親1　そうよ、馬育てるのって大変なんでしょう？
母親4　私はわかりませんけど、主人が趣味でやっていますから・・。
母親1　普通は、趣味じゃできないわよ。そんなこと。
母親6　そうよ。うちの馬鹿なんてね、競馬でスッカラカンにしてくるのが、せいぜいなもんよ。
母親1　男の人って、どこも同じですよね。
母親2　安藤さんのところって、本当お金持ちよね。
母親4　そんなことありませんわ。
母親6　あら、いいのよ気にしなくて。お金なんてね、無けりゃ無いでやっていけるんだから。
母親4　そうですよね。

母親6　あれば使っちゃうんだけどね。
母親たち　あはははは・・・。
父親3　・父親3　大荷物を手に入ってくる
看護婦1　すいません。
主任　はい。
父親3　平光さん！　大介君の御誕生、おめでとうございます。
主任　どうも。それで、うちの女房知りませんか？
父親3　病室には、いらっしゃいませんでしたか？
主任　はい、それで探しているんですけど・・。
看護婦たち　（看護婦たちに）誰か、平光さん見なかった？
看護婦4　見てません。
父親3　トイレじゃないですか？
看護婦3　じゃあ、行ってみます。
父親3　中に入っちゃうんですか？
看護婦4　いえ、前で待ってます。
父親3　・父親3　去る
母親1　今のが平光さんのだんなさんですか？
看護婦1　ええ、今日お子さんがお産まれになったばかりなんですよ。
母親6　なんか頼りないわねぇ。
主任　やさしくっていい方なんですけどね。
母親2　お名前決まりました？
母親4　ええ、うちは産まれる前から、「久師」って決まってましたの。
母親6　なんかお金持ちが言うと、「久師」って名前も違って聞こえるわよ。
母親4　そんなことないですよ。可知さんはその子の名前、もう決まりました？
母親6　それがまだなのよ。六人目になると、考えるのも面倒くさくって。適当に決めちゃおうかしら。
主任　だめですよ。名前は、ちゃんと付けてあげなきゃ。
母親6　はい。そういえば、栗田さんのところは何て付けたの？

母親５　うちの子は、「佳代子」って言うんです。前山さんちも女の子でしたよね。
母親１　はい。たーくんと二人で、「美奈」って付けました。
母親２　うちまだ決まってないんですよ。
主任　名前付けるのって、難しいですからね。
母親２　今日主人が初めて来てくれるんですけど、二人で考えようと思って。
主任　そうですか。
父親３　・父親３　再び登場
主任・看護婦１　すいません。
父親３　はい。
看護婦１　誰もいないようなんですけど・・。
父親３　みえませんでした？
主任　はあ・・。
母親６　どなたかご存知ありませんか？
売店の方じゃないかしら。あの方お買い物好きだから。
父親３　あ、そうですね。行ってみます。
母親６　大変ねぇ。
父親３　いえ、いつものことですから・・。
母親２　・父親３　去る
母親４　苦労なさってるみたいね。
母親５　そうですね。
母親６　平光さんちの奥さんって、どんな方なんですか？
主任　きれいなんだけど、すごくわがままなのよ。
子供の名前も、奥さん一人で決めちゃったらしいですよ。
母親１　あのだんなさんなら、尻に敷かれそうね。
母親６　本当ね。
一同　あはははは・・・。
父親４　・父親４　果物かごを持って登場
清子！なんだ、こんなところにいたのか。病室の方に行っちゃたよ。
母親４　ごめんなさい。
父親４　いいんだよ。（みんなに向き直って）みなさん、いつも清子がお世話になっています。これ少しですけど、みなさんでどうぞ。
母親６　まあ、いいの？。いつもいつもすいませんねぇ。
（かごを取りに行って）これメロンじゃないの。あたしメロンなんて何年ぶりかしら。
父親１　・かごを持っていく。
母親１　・父親１　プリンの箱を持って登場。
父親１　あっちゃん！　病室にいないから心配したんだよ。
母親１　はい、プリン買ってきた。
父親１　ありがとう。
母親６　みなさんも、よかったら食べてください。
父親１　あら、すいませんねぇ～。
母親６　・プリンの箱を持って行く。
父親３　・父親３　再び登場
主任・看護婦１　すいません。
父親３　はい。
主任　やっぱりいないんですけど・・。
母親６　困りましたねえ。
父親３　どこいっちゃったのかしらね。
看護婦５　私達も探しましょうか？
母親６　いえ、一人で探しますから・・。どうも。
看護婦１　・新人看護婦１　登場
父親３　先輩。平光さんが食堂で騒いでいたので、病室に戻ってもらいました。
新人１　病室ですって。
看護婦１　あ、どうも、お世話を掛けます。
父親３　大変ねぇ。
母親６　いえ、いつものことですから・・。
父親３　・父親３　去る
新人１　何かあったんですか？
主任　何でも無いわよ。悪いけど、もう一度平光さんの病室、見てきてくれる？

新人1　はい。
看護婦1　・新人看護婦1　去る
主任　平光さんの奥さんって、本当にお元気ですよね。
母親6　そうね。
一同　ま、母親は元気が一番だからね。
新人2　あはははは・・・。
主任　（中から）田中主任、ちょっとお願いします。
父親1　はい。（主任、パネルの内側へ）
母親1　あっちゃん、あのさ、俺達もそろそろ車買わない？
父親1　どうしたの、急に車なんて。
今ね、玄関前にロールスロイスが止まってて、かっこよかったんだ。
父親4　おじゃまでしたか？
父親1　はい？
父親4　そのロールスロイス、僕のなんですよ。父が出産祝いに買ってくれたんですけどね。車なんか、3台もいらないのにな。
父親1　そうなんですか・・。（母親1の方を向いて）あの人誰？
母親1　安藤さんっていって、お金持ちなの。
父親1　へぇー。そういえば、うちにも美奈の出産祝い届いたよ。活きのいい車えびでさ、3匹もいらないのにね。
母親1　そうね。
母親4　ラスベガスはどうでした？
父親4　ラスベガスか。あそこはやっぱりいいね。時間の経つのを忘れちゃったよ。一千万ほどすっちゃったけどな。
母親4　あんまり無駄遣いしないでね。
父親4　わかってるよ。
父親1　『パチンコラスベガス』って言うんだけど、楽しくって時間も忘れちゃった。でも、二千円も儲かっちゃったよ。
母親1　すごい。
父親1　今度いっしょに行こうね。
母親1　うん。
父親4　（時計を見ながら）そろそろ時間だ。俺帰るよ。
母親4　今日はどちらへ？
父親4　官房長官と会うことになってるんだ。
母親4　じゃあ、玄関まで送りますわ。
父親1　・父親4・母親4が看護婦に赤ん坊を渡す。
母親1　うん。薬局に漢方胃腸薬頼んであるから、取りに行ってから帰るよ。
父親4　私も行く。
母親6　・父親1・母親1が看護婦に赤ん坊を渡す。
父親4　可知さん。メロンだったら車の方にまだ少し残っていますが、よろしければどうぞ。
母親1　いいの？　じゃあお言葉に甘えちゃおうかしら・・。（赤ちゃんを預けるのに、中へ向かって）すいません。（赤ちゃんを看護婦に渡す）
父親4　みなさんも、必要な物があったら、何でも言って下さいね。
父親1　みなさん。またプリンが欲しかったら、いつでも言って下さいね。
父親1・4　（明るく）どうも。
母親6　じゃ、お先に。（と言って、父親4についていく）
・それぞれ上手、下手に分かれて去るが、父親1が立ちどまり、ふり返り、見ていた主任と目をあわせる。
母親1　たーくん。
・父親1、呼ぶ母親1を追いかける。
・主任　父親1を見送って、戻ってゆく。
母親5　ねえ田中さん。安藤さんちって本当にお金持ちよね。
母親2　お子さん育てるのも、楽でしょうね。
母親5　お金かかるもんねぇ、子供って。こんなにかわいいのにね。
母親2　栗田さん。

母親5　何？
母親2　お子さん、佳代子ちゃんでしたよね。
母親5　ええ、そうよ。うちの子は、産まれる前から決まっていたの。男の子だったら「勇次」で、女の子だったら「佳代子」って。
母親2　そうなんですか。
母親5　うちの人ったらね、気が早くて、ベットやベビー服なんかも、もうみんなそろえてあるのよ。
母親2　うちはまだ何も。
母親5　それなのにね、肝心の産まれる日に仕事で来れないって言うのよ。
母親2　どうしてですか？
母親5　急な仕事で北海道まで行っちゃったの。しばらくかかるんだって・・・。家と会社とどっちが大事なのよねぇ。
母親2　お忙しいんですね。
母親5　田中さんは？
母親2　うちですか？
母親5　ええ、まだご主人にお会いしたことなかったわよねぇ。
母親2　うちも忙しくて、私も一週間会ってないんです。
母親5　あら、じゃあ産まれる前からずっと。
母親2　今日初めてこの子を見せるんです。
母親5　そうなんだ。男の子よね。きっと喜ぶわよ。
母親2　そうでしょうか・・。
母親5　そうよ。自分の子が一番かわいいもの。
母親2　そうですよね。この子、気に入ってくれますよね。
母親5　当たり前じゃない。これから忙しくなるから、がんばらなくっちゃね。
母親2　そうですね。
・父親2登場
父親2　訓子！
母親5　あら、こんばんわ。ご主人？
母親2　ええ。　あなた、この子。

父親2　向こうで話そうか。
母親5　あら、おじゃまでした？
母親2　いえ、いいんですよ。　お願いします。
・母親2、子供を看護婦に渡す。
母親5　おやすみなさい。
母親2　おやすみなさい。
・母親2、父親2とともに去る。
看護婦3　そろそろよろしいですか？
母親5　はい。　すいません。
・看護婦に赤ん坊を渡す。
看護婦1　あの、私っていつごろ退院できますか？
母親5　一週間ぐらい後になりますけど、どうかなさいました？
看護婦3　いえ、主人に電話しておこうかと思いまして。
母親5　早くお帰りになるといいですね。
看護婦1　はい。
母親5　そろそろ消灯の時間ですから、病室に戻ってくださいね。
看護婦1・3　はい。じゃ、おやすみなさい。
母親5　おやすみなさい。
・母親5、去る
看護婦3　今日、もうこれで終わりだよね。
看護婦1　夜勤残ってるでしょ。
看護婦3　はい。
看護婦1　智子は？
看護婦3　見てないよ。
看護婦1　見てないって・・。
看護婦3　またどこかでサボってんじゃないの。
・椅子・パネル、袖へ移動開始。場面転換開始。
・看護婦2、パネルの内側より登場。芝居は転換中も続いている。
看護婦2　先輩、見ました？
看護婦1・3　何を？
看護婦2　五号室の池田さんのご主人。いい男。私好み。

看護婦3　そーお。
看護婦1　猿顔じゃない。
看護婦3　悪しゅみ。
看護婦1　それより三号室の佐藤さんのだんなさんよ。かっこいいし、優しそうだし、私ああいうのが好きなの。
看護婦3　でもしょせん人の夫でしょ。
看護婦2　結婚できない。
看護婦1　結婚するなら、
看護婦2　やっぱりお金。将来性がないと。
看護婦3　次は性格が良くないとね。
看護婦1　3番顔。
看護婦3　4番高学歴。
看護婦2　そして極めつけは、
3人　医者に弁護士、実業家！　だよねー。
看護婦2　でも、男からの条件ってあるんですかねぇ。
3人　・・・さ、仕事仕事・・・・・・
看護婦2　・それぞれの方向に去ってゆく。

父親2　・父親2・母親2　アーチの上に登場。
母親2　一週間考えたよ。
父親2　・・・・それで？
母親2　いいよ。・・・別れよう。
父親2　・・・そう。ありがとう、分かってくれて。
母親2　君がそんなこと考えているなんて、知らなかったよ。驚いた。
父親2　ごめんなさい。
母親2　いいよ。本当は俺も迷っていたんだ。子供のことがあったから、ずっと言い出さなかったけど。
父親2　そうだったの。
母親2　ああ。君が言わなかったら、多分俺のほうから言ってたよ。
父親2　そう。反対されると思ってた、あたし。
母親2　俺だってそう思っていたよ。お互い相手のことが何もわかってなかったんだな。
父親2　・・・届けはいつ？
母親2　君が退院して、少し落ちついてからにしよう。子供のことがあるから、すぐには出せないよ。
父親2　片親で育つのはかわいそうだけどね。
母親2　もともと合ってなかったんだよ、俺たち。このまま続けたって、どっちかが無理していくだけだろ。
父親2　そうよね。
母親2　そうだよ。それに、二人ともまだやり直せない年じゃないし、君だって子供がいなかったら、何とかなるだろ。
父親2　どういうことよ。
母親2　子供は俺が引き取る。
父親2　いやよ、私が育てる。
母親2　母さんが面倒見てくれるんだ。良明のためにも、その方がいいだろ。
父親2　何よ「良明」って。
母親2　子供の名前だよ。俺が付けたんだ。
父親2　どうしてそんな・・・。勝手に決めないでよ。
母親2　じゃあ、名前ぐらいは君が決めるかい？
父親2　そういうこと言ってるんじゃないでしょ。
母親2　君じゃ育てられないよ。
父親2　できるわよ。
母親2　無理だよ。
父親2　私が産んだ子よ。
母親2　それだけのことだろ。
父親2　・父親2、去る。
母親2　ちょっと待ってよ。
父親2　・母親2、去る。

だいすけ・赤ん坊　・赤ん坊たちが走りまわり始める。
・赤ん坊1が、だいすけのベッドに潜り込む。
（飛び出してきて）うわぁ

だいすけ
赤ん坊１
だいすけ
赤ん坊１
ふみえ
赤ん坊１
じゅんぺー
赤ん坊１
じゅんぺー
だいすけ
赤ん坊１
だいすけ
赤ん坊１
だいすけ
赤ん坊１
ふみえ
じゅんぺー

ゴッゴキブリ！
しーっ！静かにしてよ、もう！。見つかっちゃうじゃない。
君は誰？
あら、あなた見たことないわね。
はーい。寛子。
文恵ちゃん。この子は？
こいつね、今日生まれた大介って言うんだよ。
そうなの。
ああ・・。こっちは、となりの部屋の寛子ちゃん。
よろしく！
よろしく！
で、さっきから何やってるの？
かくれんぼ。
かくれんぼ？
そう。
毎晩やってるのよねー。
オニは誰？
・会話中に赤ん坊２、アーチの上に登場。赤ん坊３もいる
寛子見ーつけた。
見つかっちゃった。早く早く！あれ？宏美ちゃんたら、もう見つかっちゃったんだね。
うん、一番だったんだ。
よーし２人目だ。
・赤ん坊１、赤ん坊３の後につく。みなも興味を持ち、後ろへ。
あれ？またギバがオニか。
じゃんけん負けちゃってさー。
よろしく。
よろしく。
よろしくね。ねえ他の子みなかった？
まだ他にもいるの？
うん！いっぱいいるよ。

だいすけ
赤ん坊３
赤ん坊１
だいすけ
赤ん坊２
赤ん坊１
赤ん坊３
赤ん坊１・３
よしあき
みな
ひさし
かよこ
ふみえ
かよこ
ふみえ
赤ん坊２
赤ん坊２
赤ん坊２
だいすけ
赤ん坊２
ひさし
赤ん坊４
ふみえ

みんな、かくれんぼやってるの？
ううん、ケンカしている部屋もあるし。
５号室なんて一晩中踊りまくってるよ。
そんなことしていて、大人に見つからない？
見回りに来るといっても、夜中に２回しか来ないんだ。
ちょっとぐらい見つかっても、誰も赤ん坊だなんて思わないし。
かくれる所はいっぱいあるし。
ね～。
美奈！何やってんだ、お前。
おもしろそうだから、仲間に入れてもらおうと思って。
のりやすいやつ。
私も入りたい。
あぶないから止めときなさい。
はーい。でも楽しそうだよ。
でも、ケガしちゃだめでしょ？
・うるさくなると同時に、足音がたくさん聞こえてくる。
し！
・静かになる。赤ん坊２そろりそろりと中央へ。
（ドン！と床をならす。）
・赤ん坊があちこちから出てくる。
佳生、綾子、孔見夏、伸行、見ーつけた！
・ストップポーズ。他の赤ん坊は、去ってゆく。
こんなにいたんだ。
５部屋合同でやってるからな。
多すぎだよ。
次は８部屋だよね。
・部屋の隅で見つからないように、赤ん坊が逃げ出す。
たくさんいりゃあ、いいってもんじゃないんじゃない？

赤ん坊2　お前たちも誘ってやろうとしたんだぞ。
よしあき　オレはいいよ。
赤ん坊2　（逃げる赤ん坊に気づき）あ、まてー！（追いかける）
他部屋の赤ん坊達　まてー！
だいすけ　ね、僕も入れてよ！
赤ん坊1　次の遊びが始まったら、また呼びに来てあげるからね。バイバイ。
だいすけ　バイバーイ。
・他の部屋の赤ん坊達、去る。
だいすけ　（見送って）にぎやかな人達だね。
ふみえ　バタバタバタバタして、うるさいだけよ。
かよこ　おもしろそうだと思うけどなあ・・。
だいすけ　あれ？戻ってきたよ。
じゅんペー　本当！
だいすけ　あっ、違う！大人だ！
・全員あわててベッドに戻る。
・父親2・母親2、再び登場。
父親2　まてよ、訓子。
母親2　あの子は渡さないから。
父親2　何言ってるんだよ。子供の身になって考えてみろよ。
母親2　考えたから言ってるんじゃない。あなたやお母さんに、子供が育てられるなんて思えないもの。
父親2　どうしてだよ。
母親2　あなた、どれだけ自分が勝手なことしてきたか、わかってないでしょ。私がどう思っていたか、あなた知らないでしょ。
父親2　わからないよ。知りたいとも思わない。
母親2　そんな・・。
父親2　君がどう思っているのか知らないけど、気持ちだけじゃ子供は育てられないんだよ。
母親2　わかってるわよ。
父親2　わかってないよ。　なあ、訓子。もうちょっと落ち着いて考えろよ。どうすれば、良明にとって一番いいのか。
母親2　・・・ねえ、私達　元に戻れないの？
父親2　俺は、反対だな。お互い、苦労が増えるだけだよ。あなたには迷惑掛けないわよ。あの子と一緒に居られればいいから。
母親2　思い通りにならないから、元に戻ろうって言うのかい？
父親2　違う！そうじゃない！
母親2　だったら、最初から別れる気が無かったのか。俺に言って欲しかったのか、別れたくないって。
父親2　だから・・・、私は・・・。
母親2　俺を試したのか？
父親2　・・・・
母親2　俺はそんな男じゃない。君はわかってると思ったよ。
父親2　お願い、もう一度考えて。
母親2　考える必要はないよ。君が答えを出したんだ。
父親2　でも・・・
母親2　もういい・・・。もういいよ。
父親2　・・・・・
母親2　子供は退院の日に引きとりに来る。君の住む所も手配しておくよ。
父親2　・・・・・・
母親2　これが君の望んだことの結果だよ。結婚も、子供の事も。
父親2　違うわよ。あなたが私を追いこんだんじゃない。
母親2　何とでも言えばいいさ。
父親2　・父親2、去る。
母親2　（ゆっくり新生児室に入り、子供を抱いて歌を歌い始める）♪こんにちは、赤ちゃん、私がママよ、こんにちは・・・（嗚咽となってしまう。自分の子供可愛さに、首をしめてしまうが思いとどまる。泣く

赤ん坊を、あわてて抱きあやすうち、嬰児交換を思いつき、自分の子供「よしあき」を「ひさし」と入れ替えてしまう。その後、自分の子供のことを気に掛けながらも、新生児室を出て行く。）

・よしあき、せきこみながら起き上がる。
・他の6人も、とまどいながら起き上がる。
（よしあきとひさしを見くらべて）ねえ、久師。これから良明って呼べば、いいのかな。
俺が、良明・・・・・。
じゃあ、こっちが久師君？
・よしあき、ひさし、自分の足のリングを見る。
ねぇ、2人ともさあ、こんな風に入れ替わるって知ってたの？
（はっとして）じゃあ俺が写真家なんてやるの？。
・・・・ははは冗談じゃないよ。良明、さっさと戻ろうぜ。
・・・いやだ。
・・・何だって？
良明！
へ！？
南極には、お前が行ってくれ。
まさかお前・・・。
俺、こっちでいいや。
こっちでいいっじゃなくて、俺はそっちじゃなきゃいやなんだ。
そりゃそうだろうな。
お金持ちだもんね。
当然さ。
私は夢やロマンの方があったほうがいいと思うけど。
いいじゃないか、オーロラの輝きはキレイなんだぜ。
俺はダイヤの輝きの方がいいの。　返せ！俺の資産

ふみえ
ひさし
みな
だいすけ
ひさし
よしあき
ひさし
よしあき
ひさし
よしあき
ひさし
よしあき
ひさし
よしあき
ひさし
じゅんぺー
みな
ひさし
ふみえ
よしあき
ひさし

よしあき
だいすけ
ふみえ
ひさし
よしあき
ひさし
よしあき
みな
よしあき
だいすけ
ひさし
だいすけ
ひさし
よしあき
ひさし
よしあき
6人
よしあき

よしあき

ひさし
よしあき
ひさし
よしあき
ひさし

百八十三億！
あきらめろよ。どうせ今晩で最後なんだしさ。
そうか。もうみんな忘れちゃうんだ。
最初から、知らなかったと思えば平気よね。
あのね、おれは平気じゃないの。　良明、戻れ。
やだね、そんな家。
戻れ！
イヤだ！
結局、良明捨てられたんでしょ？
・一同沈黙。
（黙ってつかつかと、「よしあき」のベッドに近づき、前に座り込み、泣き出す。）
良明君、元気出しなよ。お金持ちの家に預けられたと思ってさ。
じゃあ、俺はどうなるんだよ！
ごみの中に捨てられたと思ってさ、あきらめなよ。
あきらめられるか！
（突然立ち上がり）よし、俺決めた！
戻るのか？
思いっきりぜいたくしてやるよ。
ぜいたく？
純平、お前の山小屋でっかくしてやるよ。　（ふみえに）もっといい男見つけてやるよ。　（みなに）バチ当てねえなら、『みなさん教寺院』つくってやるよ。
・大騒ぎになる。
久師は・・・、よ、良明は、宇宙でも行ってこい。
月面写真とか撮りにさ。金のことなら心配するな。
みんな俺が出してやるから。
いい加減にしろよ、良明。
何か言ったか、良明。
な、それ冗談で言ってるんだろ。
俺は、本気だぜ。
お前のうちのもめ事だろ！

よしあき　俺だって、知らないよ！
二人　・・・・・
ひさし　そっちがそうなら、こっちにも考えがあるぞ。
よしあき　何だよ。
ひさし　お前の母さん、説得してくる。
よしあき　まてよ。
ふみえ　あんた一人で済むことじゃないのよ。
ひさし　わかってるよ、そんなこと。
だいすけ　だったらどうして？
ひさし　写真家なんかになるくらいなら、俺がめちゃくちゃにしてやるよ！
よしあき　もう、この人生でいいじゃないか。
ひさし　バカ言ってんじゃない！
・ひさし、自分に付けられていた「よしあきの足輪」を床にたたきつけ、走り出す。途中で止まって振り返る。
ひさし　お前の家の都合で、俺の運命まで変えられてたまるか！
よしあき　もう、変わっちまったんだよ。
ひさし　だったら、元に戻してやる！
よしあき　久師！（追いながら、足輪を拾っていく）
かよこ　久師君！
よしあき　見つかったらどうするんだ！
6人　（それぞれが叫びながら、ひさしを追う。）
・全員舞台上より去る。

・上下よりパネル・椅子が出て、場面は廊下。椅子に母親2が座っている。
・看護婦2・3が見回りの様子で、懐中電灯を持って入ってくる。
看護婦3　2号室の鈴木さんに、薬あげた？
看護婦2　あ、忘れてました。
看護婦3　また。

看護婦2　はい。
看護婦3　もう。明日の朝、あげてね。
看護婦2　はい。でも、今日大変でしたよね。
看護婦3　そうよね、出産多かったもんね。
看護婦2　そうですよね。
看護婦3　あ、智子、今日がんばっていたわよ。
看護婦2　そうですか。
看護婦3　あれなら、もうまかせても大丈夫かな・・。
看護婦2　本当ですか！
看護婦3　お世辞に決まってるでしょ！
看護婦2　はい。
・看護婦達、母親2に気付く
看護婦3　あら、田中さん。どうなさったんですか？
看護婦2　もう一時過ぎてますよ。
母親2　ちょっと考え事があって。
看護婦3　駄目ですよ、早く病室に戻らないと。
看護婦2　赤ちゃんは、親に心配事があると、すぐにわかっちゃうんですから。
母親2　すぐ戻りますから。
看護婦3　じゃ、ここの明かりつけておきますね。
看護婦2　おやすみなさい。
母親2　おやすみなさい。
・看護婦、去る。
・赤ん坊、パネルの裏より顔を出す。
じゅんぺー　・7人とも上手側のパネルの前に移動。
だいすけ　どうするんだよ、久師。
ひさし　本当に話しかける気？
バカ、そんな事できるわけないだろ。だいたい俺たちの声は、「おぎゃあ、おぎゃあ」としか聞こえないんだから。
ふみえ　じゃあ、どうするのよ？
ひさし　来る途中に考えるはずだったんだよ！
よしあき　おい、さっさと帰ろうぜ。
じゅんぺー　良明、お前の母さんなんだぞ。

よしあき
かよこ
だいすけ
みな
ふみえ
よしあき
みな
だいすけ
じゅんペー
ふみえ
だいすけ
ふみえ
だいすけ
5人
ひさし
よしあき
ひさし
ふみえ
じゅんペー
ひさし
よしあき
ひさし
よしあき
母親2
赤ん坊たち
母親2

でも、俺は捨てられたんだよ。
お母さん、さみしそうだよ。
ずっと泣いてたみたいだし。
一番つらいのは、お母さんなんじゃないかな。
良明、本当のところはどうなの？
母さんがこうしたいっていうんだから、しょうがないじゃないか・・・。久師には悪いけどさ・・・。
大人って、いつも勝手だよね。
僕達のためを思ってくれては、いるんだろうけどね。
世の中うまくいかないもんだな。
久師。お母さんも考えた末のことだろうと思う。
そうだよ。
だから・・・。
とりあえず部屋へ帰ろう。
（などと口々に言っていると）
（黙っていたが、よしあきの方へ手を出す）
えっ・・。
俺の足輪・・・拾ってきたんだろ。
じゃあ、いいの。
本当にいいのか。
忘れちまえば、何になったって同じだよ。
久師、お前・・・
久師はお前だろ。（よしあきの手から足輪を取る。）
・・ごめん・・。
・遠くで赤ん坊の泣き声がする。
（ビクッとして立ち上がる。）
（身を小さくする。やがて母親のスキを見て、新生児室へ帰る。）
（思い立ったように走り去る。）
・パネル、いすなど撤去して場面転換、新生児室へ

母親2
主任
母親2
主任
母親2
主任
母親2
主任

だいすけ
よしあき
みな
ひさし
じゅんペー
よしあき
ひさし
よしあき
ひさし
よしあき
だいすけ
よしあき
かよこ
よしあき
かよこ

・母親2、新生児室へ入ってくる。
（周りに気を配りながら、よしあきとひさしを再び入れ替え、元に戻す。よしあきの手を握り、見つめている。）
・主任が入ってくる。
どうかしましたか？
・・・・赤ちゃんが泣いてるような気がして。
大丈夫ですよ。みんなよく眠ってますから。
ちょっと心配しすぎたみたいです。
明日からは新生児室を出て、一緒に寝られますよ。
はい・・・。これからは、ずっと一緒です。
ええ。
・母親2、途中よしあきの方を振り返りながら、去る。
・主任、室内を見回ってから、去る。
・赤ん坊たち起き出してくる。
おかえり、良明。
・・・ただいま。
おかえり、久師。
・・・ただいま。
世の中意外とうまくいくもんだな。
久師！
何だよ。
うちの親の都合で、迷惑かけたな。
やっぱり俺には、金持ちの方が性に合ってるよ。
俺はロマンと貧乏か。へへっ、これからどうなることやら。
知らないの？
だから言ったじゃないか。細かいところよく聞いてないってさ。
どんな人生でも、私は2人とも大好きよ。
佳代子、俺の嫁さんになるか？
それは、イヤ。
・大笑い。

ふみえ　やっぱり、本当に好きな人と結婚したいよね。
じゅんペー　あれ？　スリランカの後の文恵ちゃんと大介君はどうなるんでしたっけね？
だいすけ　ずっと追いかけ回されて・・・。
じゅんペー　追いかけ回されて？
だいすけ　日本に帰って来て、結婚するんだ。
よしあき　何だ、やっぱりそうなのか。
ひさし　文恵が尻に敷くんだろうな。
じゅんペー　意外と大介が暴力ふるったりして。
だいすけ　そんな事しないよ。結婚した後はずっと仲良くやっていくんだ。
ふみえ　子供や孫もいっぱいいるしね。
だいすけ　二人でけんかしながら、九十歳くらいまで生きていくんだ。
よしあき　何だかんだ言っても、結局幸せなんじゃないか。
ふみえ・だいすけ　そうかもしれない。
じゅんペー　きっとそうだよ。
みな　わかった！結婚式は『みなさん教』で挙げよう。きっと幸せになれるよ。
だいすけ　それはカンベンしてくれよ～！
・笑い。
赤ん坊2　・赤ん坊たちが次々と入ってくる。
赤ん坊3　姫～姫～姫はどこだーっ！
赤ん坊2　あーれー！誰か助けてー。
赤ん坊5　姫！今お助けしますぞ！（アーチの上に）
赤ん坊2　（アーチの上に）私をたおしてからおゆきなさい！
こしゃくな！かかれぇ～っ！
・忍者ごっこを始める
・ふみえ、ミルクの缶を取り出す。
ふみえ　（缶をたたいて、ガンガンガン）人の部屋でいいかげんにしなさい。
赤ん坊6　一緒にやろうよ。
ふみえ　ダーメ。
他部屋の赤ん坊達　え～～（すわりこむ）
赤ん坊3　ふみえ
赤ん坊2　赤ん坊1
赤ん坊1　赤ん坊4
赤ん坊1・4　だいすけ
かよこ　赤ん坊1
赤ん坊1　ひさし
赤ん坊2　赤ん坊4
赤ん坊3　だいすけ
赤ん坊1　かよこ
ひさし　かよこ
かよこ　だいすけ
ふみえ　だいすけ
よしあき　じゅんペー
かよこ　赤ん坊7
かよこ　ひさし
かよこ　じゅんペー
赤ん坊2　よしあき
ここでやろうよ。
向こうの部屋でやりなさいよ！
しょうがないなぁ、俺の部屋でやろうか。
ヤダ、ここでやりたいの！
こっちのほうが広いもん！
ねー。
じゃあ、僕も入れてくれる？
私も！
いいよ、一緒にやろう。
でも、もう時間だからやめないと。
えっ、もう5時。
もうそんな時間？
まだ、始めたばかりだと思ったのにね。
そんな、後で僕も入れてくれるって言ったのに。
ゴメン！でも、明日またやればいいじゃない。ね。
私ももっと遊びたい。
お前はまだあと2日あるだろ。
だって、久師君やギバ君は、もう今日でお別れでしょ？
そうだよ。もっと遊ぼうよ。
だめ。ベッドの中で大人しくしてるの。
じゃ、ベッドの中で遊ぼう！
何？
それならいいんでしょ。
でも、みんなでできないと面白くないぞ。
じゃあ、みんなでやろう。
何やるの？
泣き声競争！
何それ？
みんなで大声で泣くの！5時になったら一斉に！
果たして、一番大きな声で泣けるのは誰か！
何ていって泣くんだよ。
何でもいいじゃないか。好きな事を叫んでも、ただ泣くだけでも。

ひさし　いいなあ、それ。
赤ん坊３　病院中の赤ちゃんがいっせいに泣き出したら、スッゴイだろうね。
かよこ　やろうよ！
赤ん坊３　やってみたい！
赤ん坊４　私も！
赤ん坊５　私も！
かよこ　みんなでやろう！
赤ん坊８　大人たちも、ビックリするぞ。
赤ん坊１　じゃあ、５時ちょうどにね。
全　員　うん！
赤ん坊２　他の部屋にも伝えてくるよ。
ふみえ　もう寝てるんじゃない？
赤ん坊５　起こしてでも泣かすわよ。
赤ん坊７　かわいそー。
赤ん坊２　関係無いよ、そんなこと。
赤ん坊１　今日でお別れの人もいるんだからさ。
赤ん坊５　じゃ、行こう。
全　員　うん！
・各々ワイワイ話しながら去る。
かよこ　何だかワクワクする！
じゅんぺー　お前こういうの好きだな。
かよこ　私、この三日間しかみんなと会えないから、その間少しでも遊んでおきたいもん。
ふみえ　私と大介みたいに、会えるかもしれないよ。
かよこ　ううん、会えない。
みな　どうして？
かよこ　言ってなかったっけ。
ひさし　知らないよ。
かよこ　私、退院して一週間したら、死んじゃうの。
だいすけ　え・・・佳代子ちゃん死んじゃうの？
かよこ　うん、肺炎にかかるんだ。
よしあき　そうか・・・さみしいな。
ひさし　俺たちで何とかできたらな。
かよこ
じゅんぺー
みな
じゅんぺー
かよこ
じゅんぺー
かよこ
ひさし
じゅんぺー
ふみえ
かよこ
だいすけ
みな
よしあき
ふみえ
だいすけ
じゅんぺー
ひさし
よしあき
全　員
ううん、これでいいの。私三十年後に、世界で一番大きなチョウになって、新聞に載るの。
え、その発見者、俺だよ！
どこで？
山小屋のすぐ近くで！
じゃあ、純平君が見つけてくれるんだ！
うん！　へへへ三十年後かぁ。
私にはすぐなんだけどね。
純平、お前、生まれかわった佳代子と会えるんだ。
そうみたいだよ。
佳代子、どうして次の生まれかわりのことまで知ってるの？
天使様が教えてくれたの。人間の人生では何もできないから、次はチョウに生まれかわって、好きな事して思いっきり遊ばせてくれるって。
佳代子ちゃんが満足しているのなら、それでいいんだけどね。
うん、さみしくないもん。
私もみんなと会いたいな。
僕達知らないだけで、またみんなどこかで会えるんだと思うよ。
これまでにも会ってたかもしれないよ。
次はどんな風に会うんだろう。
ばーか。知らないから生きてて楽しいんじゃない か。
そうよね。・・・大介、十八年間絶対浮気しないでよ。
そっちこそ。
さっ、もう時間だよ。ベッドに戻ろうぜ！
・お互い声を掛け合い、話しながらベッドに戻る。
（ベッドの中から）じゃ、みんな・・・またいつかどこかで。
未来の俺たちと。
うん！

看護婦１
看護婦３
看護婦１
看護婦３
看護婦２
看護婦１・３
看護婦２
主　任
看護婦３
主　任
看護婦１
看護婦達

・ベッドにもぐる。
・赤ん坊が一斉に泣き出す。看護婦たちが次々出てくる。
どうしてみんな泣いてるの！
あっこ！ここでも泣いてるの？
ここでもって・・。
向こうでも泣いてるのよ！
何なんですか？
知らないわよ！
はい！
・看護婦たち、叫びながら右往左往している。
戸成さん。若松先生どこ？
出産のほうに行っちゃったんです。
どうして、こんな時に・・。
・看護婦たち、叫びながらますます右往左往するばかり。
どうしよう！
先生！
・『先生！』の叫び声でストップ・モーション
・シルエットの中エンディング・ダンスへ。